

挑む!

漆芸工房「ひょうぼうどう表望堂」代表

島本 めぐみ 恵未さん(30)

現代建築に漆 新時代開きたい

個人の家の床を漆塗りにしたり、ホテルのドアに蒔絵を施したりと現代建築に漆を採り入れる活動を夫とともに続けている。

漆塗りの床は一般塗料にはない、つやのある輝きと、自然の材料を使う安

全性や耐久性が特長だ。マンションの玄関などに設置されるオブジェも手がけ、昨年にはパリの展示会にも進出。ガラスのパネルに裏側から漆と金箔を

はった壁飾りを出展し、珍しい素材として注目を集めたという。



和歌山市出身。京都精華大で日本画を学び、漆芸作家に弟子入り。2014年に夫と漆芸工房「表望堂」を立ち上げ独立。秋に常設ギャラリーを開く予定。

伝統工芸を志したのは、四季折々に漆器のお重を出して家族で食卓を囲んだ原体験から。京都市にある工房では夫の杉本晃則さん(37)が漆を塗り、恵未さんが金粉で絵を描く分業体制で支え合っている。

以前は仏具や茶道具づくり、寺社建築の修理といった伝統的な仕事を中心に手がけていたが、次第に「漆の需要を開拓しきれないのでは」という思いが募った。「若いときだからこそ新しいことを」と、現代の建築や暮らしに合う漆の活用を目指した。

6年ほど前から様々な商品を開発。徐々に軌道に乗り、2014年に2人で工房を立ち上げた。今や建築系の仕事は従来の仕事に並ぶ柱に成長している。「漆に携わりたいと願う、ほかの若い人たちの仕事も作っていききたい」

文・写真 金本有加

記者から

互いの人柄や腕を認めあいながら、工房を切り盛りしている島本さんご夫婦。すてきです!